

平成30年度 文教委員会資料④

【所管事務の調査（報告）】

ミュージア川崎シンフォニーホール 次期指定管理の考え方について

資料

ミュージア川崎シンフォニーホール 次期指定管理の考え方について

市 民 文 化 局

(平成30年8月23日)

本市では、「ミュージア川崎シンフォニーホール(以下「ミュージア」という。)」を中核施設として、「音楽のまち・かわさき」を推進しており、運営については平成16年の開館以来、指定管理者制度(指定期間5年)を導入しています。また、ミュージアについては、引継期間を1年としていることから、指定期間4年目の今年度が、次期指定管理者選定の年となっており、次のとおり、次期指定管理者を選定してまいりたいと考えています。

1 基本概要

- 施設名称:川崎シンフォニーホール(愛称:ミュージア川崎シンフォニーホール)
- 指定管理者:川崎市文化財団グループ
※公益財団法人川崎市文化財団、株式会社シグマコミュニケーションズ、サントリーパブリシティサービス株式会社から構成
- 指定期間:平成27年4月1日～平成32年3月31日(第3期 5年間)
- 施設概要:音楽ホール1,997席(車いす10席含む)
音楽工房(市民交流室1、練習室3、会議室3、研修室4、企画展示室1)



ホール外観



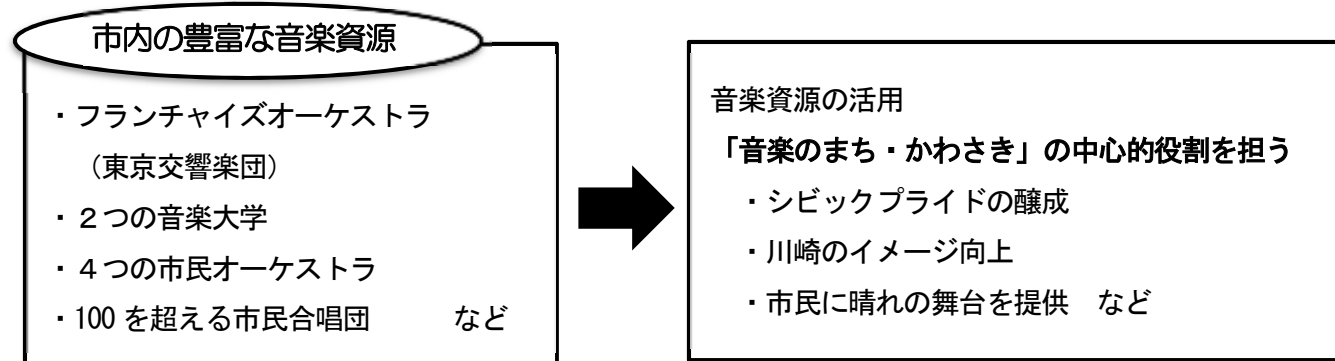
ホール内部



音楽工房(市民交流室)

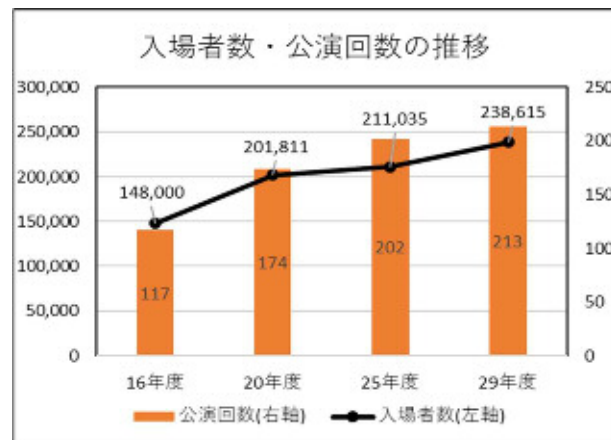
2 「音楽のまち・かわさき」におけるミュージアの位置付け

- 「音楽のまち・かわさき」の中核施設として、市民に良質で魅力ある公演を鑑賞する機会を提供
- 市内の豊富な音楽資源を活用し、幅広い世代の市民が音楽を通じて、川崎に愛着と誇りが持てる取組を実施



3 これまでの取組

(1) 利用実績



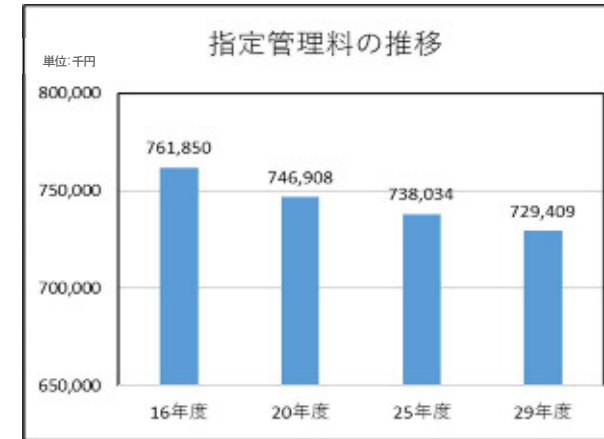
【平成29年度実績】

- 入場者数:238,615人(過去最高)
- 公演回数:年213公演
(主催・共催106公演 貸館107公演)
- ホール日数稼働率:99%

【利用実績が好調な要因】

- フェスタサマーミュージアや海外オーケストラ等、主催公演が好調
- ホール知名度の向上により、貸館による利用が増加
- ホール利用のスケジュール調整やメンテナンスの効率化による稼働日数の増加

(2) 指定管理料



【平成29年度実績】

- 指定管理料:729,409千円
⇒開館当初(平成16年度)に比べて、32,441千円(-4.3%)減少している

【指定管理料が減少傾向にある主な要因】 ※金額は平成29年度実績

- 事業活動収入:500,697千円
⇒入場者数や貸館が好調なことなどから、事業活動収入は5億円を超えており指定管理料削減につながっている
- 事業活動支出:1,199,179千円
⇒経費削減や効率的な事業実施に努めた結果、平成25年度に比べて、73,136千円(-5.8%)削減されている
- 友の会(12,075千円)、ホールスポンサー(14,990千円)、文化庁補助金(55,600千円)など、積極的に外部資金の獲得に取り組んでいる

(3) 運営実績

■「音楽のまち・かわさき」を世界に向け発信

- 東京交響楽団や海外一流オーケストラによる公演などを行い、市民に良質で魅力ある公演を提供
- 世界的指揮者サイモン・ラトル氏が「世界最高のホールのひとつ」と絶賛するなど海外からも高い評価
- 首都圏のオーケストラが集結するフェスタサマーミュージアは、過去最高の31,558人が来場(29年度)



東京交響楽団



ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
と世界的指揮者のサイモン・ラトル氏



フェスタサマーミュージア

好きな演奏会場ランキングで2位を獲得

※月刊「音楽の友」2018年4月号内「クラシック音楽ベストテン」より

■「音楽のまち・かわさき」のすそ野の拡大

- 市民合唱祭や市民吹奏楽祭、市民第九コンサート、プラチナ音楽祭など市民に晴れの舞台を提供
- こどもフェスタや若手演奏家支援、音楽大学オーケストラフェスティバル等、次世代の音楽家を育成
- 川崎駅周辺の商業施設と連携したイベント「ミュージアの日」を開催



プラチナ音楽祭



こどもフェスタ



ミュージアの日

これらの取組が評価され、平成28年度に地域創造大賞(総務大臣賞)を受賞

4 今後推進していく取組

1 公演のさらなる充実

- 日数稼働率はほぼ100%だが、公演内容をより充実させることで、さらなる入場者の獲得につなげる
- 海外オーケストラ公演の開催には、通常3～4年の期間を要するため、長期的な視点を持った企画立案が必要
- オーケストラの招致、企画には高度な専門性を要するため、適切な人材を継続して確保・育成する必要がある

課題分析

- ① 公演ごとに分析・改善（PDCA）により、一つ一つの公演の入場者増につなげる
- ② 充実した公演プログラムを企画・開催するためには、専門的人材の計画的育成が重要

➡ 充実した公演の企画・開催及び専門的人材の育成には、相応の期間が必要

2 地域連携の強化

- 川崎駅周辺の再開発（さいか屋跡地（川崎ゼロゲート（仮称））、JRホテル（ホテルメトロポリタン川崎（仮称））の開業）
- 川崎を訪れる観光客の増加（市内年間観光客数 平成25年：1,448万人⇒平成29年1,935万人 3割超の増）
- カルッツかわさきなど、新たな音楽ホールの開業

課題分析

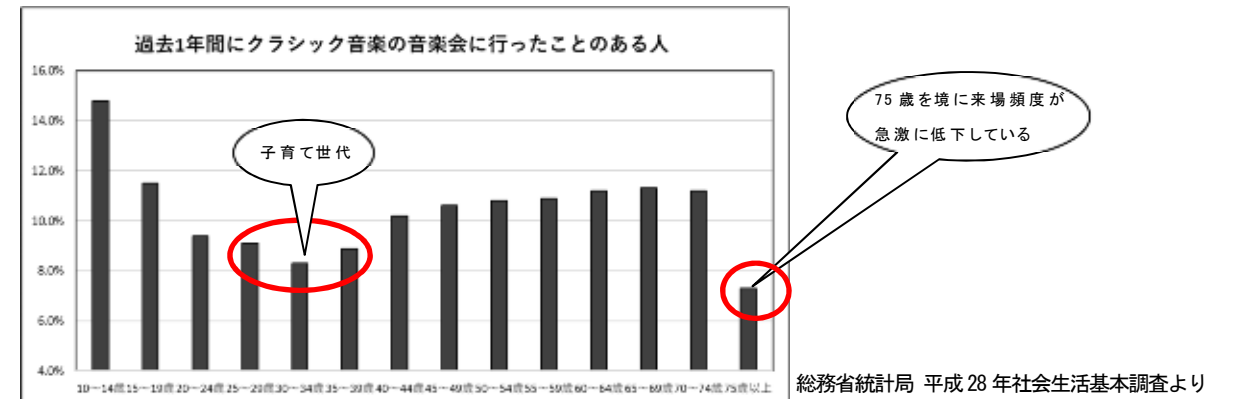
- ① 環境変化に適切に対応し、新たな商業施設、ホテル等との連携を推進する必要がある
- ② 観光セクションなど、他部署との連携強化
- ③ 近隣音楽ホールとの差別化を図り、お互いの強みを活かした連携方法の検討

➡ 多様な主体との積極的な連携が必要

3 来場者の世代・環境等への対応

- 「ミューザ川崎シンフォニーホール友の会」の会員は年々、高齢化の傾向にある
- 公演の中心であるクラシック音楽の音楽会について、世代により来場回数に違いがある

- ① 「友の会」会員に占める70歳代の割合 19% (平成16年度) ➡ 35% (平成29年度) 13年で約2倍に
- ② 世代による来場回数の違い



課題分析

- ① 本市でも2040（平成52）年には高齢者比率が3割を超えるなど、今後ますます来場者の高齢化が予想される
- ② 若年者層の取り込みや、誰もが行きやすい環境づくりやバリアフリーを推進
- ③ ホールに足を運ばない人に良質な音楽を提供する取組（巡回公演などのアウトリーチ事業）を推進

➡ 新たな来場者の獲得と、誰もが音楽を楽しめる環境づくりが必要

5 次期指定管理の考え方

基本方針

音楽文化の発信とミューザの魅力向上

ミューザの強みである“高い音響性能”を活かし、良質な公演で、市内外からの集客を図る

多様な主体との連携を通じた地域活性化

市内の様々な団体・企業等と積極的に連携することで、地域活性化を推進していく

かわさきパラムーブメントの推進

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催及び市制100周年を見据え、誰もが音楽を楽しむことのできる環境づくりを推進していく

全体での取組

人材育成の推進

- 各取組を進める上で必要な専門的人材の育成の強化
- 音楽関係者、音楽大学等から助言を得られる取組の推進

⇒ 人材育成方針の作成など長期的視点での人材育成の実施

指定期間の見直し

- 市の施策や関連計画と連動・連携した取組の推進
- 海外オーケストラや良質な公演の企画・開催には、長期的な視点と相応の期間が必要
- 市内音楽大学や合唱連盟など、地域の文化芸術団体との信頼関係を構築するには、相応の期間を要する

⇒ 期間を10年とし、長期的な視点での事業運営を実施

- ・10年にすることで、人材育成や企画の充実に必要な時間を確保
- ・新たに中間評価を導入し、継続的な評価・助言・改善指導を行うことで、より効果的かつ市の施策に連動した事業展開を実施

重点的な取組

オーケストラ公演

- 長期的な視点を持った公演の企画・開催
- フェスタサマーミューザのさらなる充実

地域連携

- 商業施設・学校・関係団体等との一層の連携
- 観光セクションや近隣音楽ホールとの連携

パラムーブメント

- レガシーを意識した公演・イベントの実施
- 高齢・障害・外国人等、誰もが音楽を楽しめる環境づくり

ミューザを支える人の育成

- 友の会への若年者層の取り込み、サービス・事業の見直し
- ミューザを支える人を増やす取組の推進

アウトリーチ公演

- 市内各所に良質な音楽を届ける巡回公演の推進
- 地域に向いてミューザのPRを積極的に実施

主なスケジュール（予定）

- 平成30年10月～11月 第4期指定管理者 公募
- 平成30年12月 選定評価委員会による審査
- 平成31年2月 指定議案 提出
- 平成31年4月～平成32年3月 引継期間（1年間）
- 平成32年4月～ 第4期指定管理 開始